

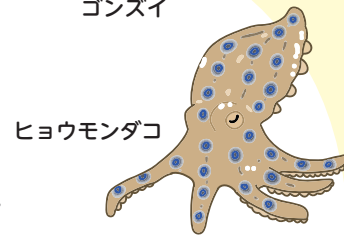
ふーちゃんのトピックス

さわ 触るなキケン!!

～海にいる身近な?! 危険生物～



ゴンズイ



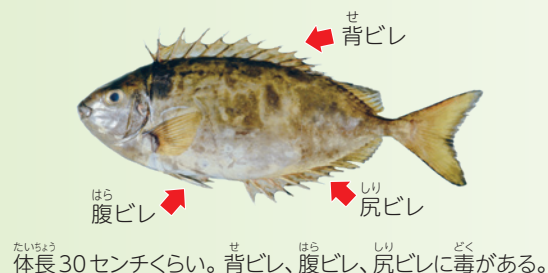
ヒョウモンダコ

今回は海で遊ぶときは絶対に触ってはいけない生き物、①アイゴ、②ハオコゼ、③ガンガゼの3種類紹介します。ほかにも、アカエイやゴンズイ、ヒョウモンダコなど、海には危険な生き物があります。どんな生き物が危険か調べてから、気をつけて遊ぶようにしましょう。

1 アイゴ

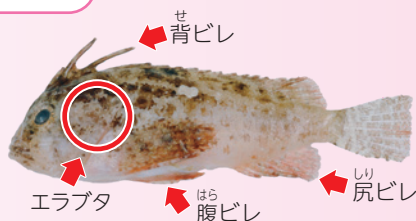
サンゴ礁や岩礁帯の浅い海に出没!

この魚はヒレのトゲに毒があります。刺されると腫れたり、痛んだりします。釣りをしていると釣れることがあります。ヒレには触らないようにしましょう。



体長30センチくらい。背ビレ、腹ビレ、尻ビレに毒がある。

2 ハオコゼ



体長10センチくらい。背ビレ、腹ビレ、尻ビレに毒がある。

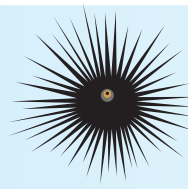
浅い海の岩場、潮だまりに注意!

磯遊びをしていると背ビレのトゲが特徴的なこの魚を見つかることがあります。触らないで観察しましょう。また、釣れた場合は毒のある背ビレ、腹ビレ、尻ビレ、エラブタ(エラを覆って保護するところ)のトゲに触らないようにしましょう。

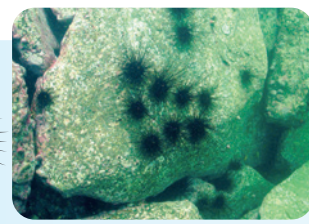
3 ガンガゼ

潮だまりや岩のすきまに潜んでいる

ウニの仲間のガンガゼは長いトゲを持っていて、これが刺さると強い痛みを感じます。さらに、トゲは折れやすく、刺さってしまうと取れにくいのです。



大きさ(トゲ含む)は30センチくらい。トゲに毒がある。



ありとあらゆることを知っているナゾのさかな仙人です



あんじい仙人のもとで修行している研究員です



アンケートのお願い

おさかな瓦版をより良くするためにアンケートを実施しております。アンケートへのご協力をお願いします。

https://forms.office.com/pages/responsepage.aspx?id=tzCtNwE0mgLrTqozK6SsuYag_J-CRHmbdoTaZU31VURUFa5UJQZvArVo5QVFWWDBQJIKRkIWMQIQNCPWcu&route=shorturl



おさかな瓦版 No.126 (2025年7月発行)

編集・発行：国立研究開発法人 水産研究・教育機構
質問の送り先・お問い合わせ先：広報課

〒221-8529 横浜市神奈川区新浦島町一丁目1番地25
GRC横浜ベイリサーチパーク 6階
TEL.045-277-0136 (広報課) FAX.045-277-0015
ウェブサイト <https://www.fra.go.jp/>

キッズページ

水産研究・教育機構 (FRA)

キッズページ <https://www.fra.go.jp/forkids/>



ふらっとらぼ

YouTubeチャンネル!

ふらっとらぼ <https://www.youtube.com/@fralabo>



ひょうしん 表紙の写真



みずあ 水揚げされたキンメダイ

見てね!

リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

水産研究・教育機構 NEWS LETTER

かわらばん

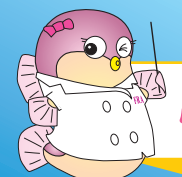
おさかな瓦版

No. 126
2025.7



キンメダイ

～真っ赤な体に
金色に輝く大きな目～



ふーちゃんのトピックス

さわ 触るなキケン!!

～海にいる身近な?! 危険生物～



キンメダイ

～真っ赤な体に
金色に輝く大きな目～

どんな魚？

キンメダイは赤い体と金色に光る大きな目が特徴です(🐟1)。釣ってすぐは、おながが銀色がかっていますが、お店で目にするころには釣ってから時間がたっているため全身が真っ赤です。深くて暗い海にすむ深海魚で、わずかな光でも見えるように大きな目を持っています(🔍チェック)。

5歳ごろから卵を産み始めます。15歳でも釣られることがあり、さらに25歳といったキンメダイも発見されています。太平洋やインド洋、大西洋など世界中にいて、日本では、房総半島、伊豆諸島、伊豆半島、高知県沖、南西諸島の近くにたくさんいます(★1)。

水深約200～800メートルの海底の斜面やデコボコした地形の場所にすんでいて、周辺にいる魚や

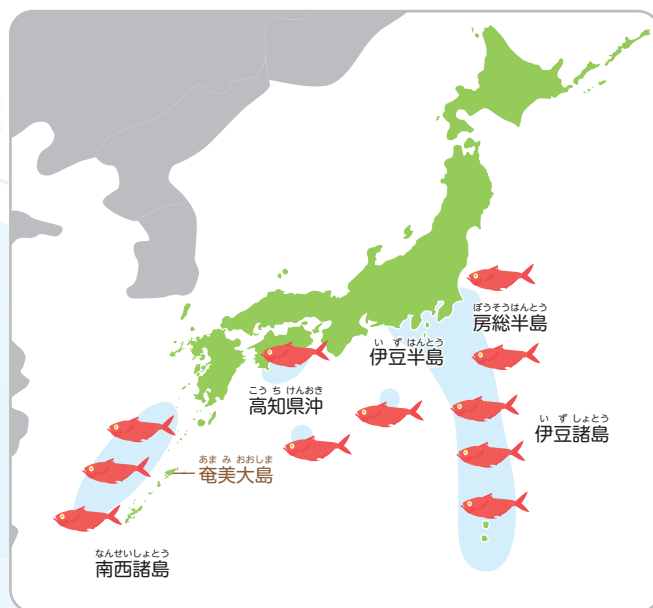


🐟1 キンメダイ

エビを食べています。名前に「タイ」とついています。が、「マダイ」や「クロダイ」のようなタイ科とは別のキンメダイ科の仲間です。1年中とることができ、刺し身や煮つけ、しゃぶしゃぶ、干物など、いろいろなおいしい食べ方があります(🐟2)。



🐟2 キンメダイの刺し身



★1 キンメダイの主な分布・漁場



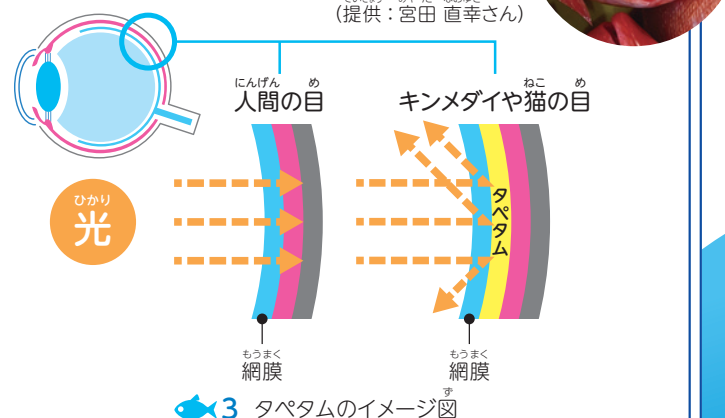
チェック

キンメダイの目にはタペタム(🐟3)という層があります。光をタペタムに反射させることによって深い海の少ない光を増やして網膜※に効率的に取り込む仕組みです。これは猫の目がくらばしよひかみおなしく暗い場所で光って見えるのと同じ仕組みです。さかなではキンメダイ以外にもアオメエソ(メヒカリ)やアカメがタペタムを持っています。

※網膜：見たものをうつすスクリーンのような役割をする

金色に光る目の秘密

タペタムが反射して目が光るキンメダイ
(提供：宮田 直幸さん)



🐟3 タペタムのイメージ図

タペタムが光を反射するので、網膜により多くの光が届き暗い場所でもよく見える

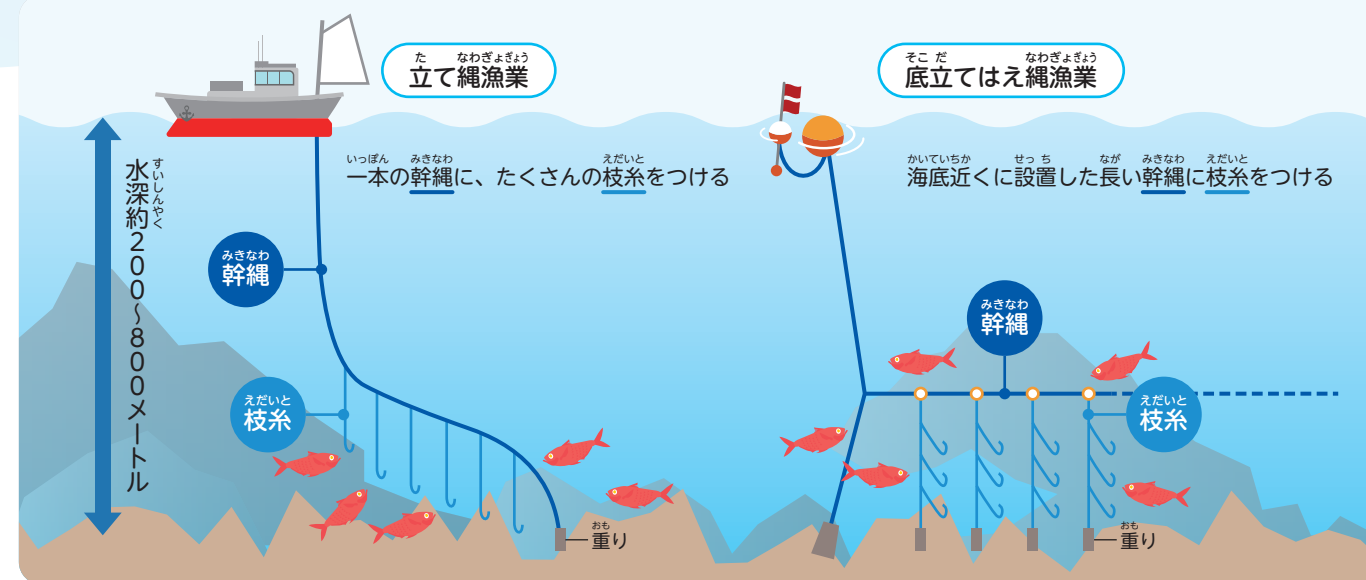
とり続ける工夫

日本では主に、立て縄や底立てはえ縄(★2)という長い糸に針をたくさんつけた道具で、深い海の底から釣りあげます。海の中にいる小さなキンメダイを全部とってしまうと、5年後10年後に大きくなってからとれる魚がいなくなってしまうです。

そこで、キンメダイの漁業者さんたちは、昔からみんなで話し合い、釣り針の数、とっていい場所、とっていい時期を制限します。そうすることで一度にたくさんとらず、成長するのを待ちながら、少しずつ何年にもわたってとり続けることができます。

底立てはえ縄漁業

かいていちか せつ ち なが みきなわ えだいと
海底近くに設置した長い幹縄に枝糸をつける



★2 立て縄漁業と底立てはえ縄漁業のイメージ図

小さなヒレで遠くまで泳ぐ？

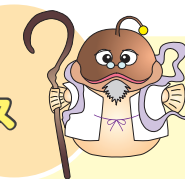
ずっと同じ場所で生きているのか、どこかほかの場所に移るのかを調べるために、キンメダイの背中に標識(しるし)を付けての調査(🐼ワンポイント)が昔から行われています。房総半島で標識を付けたキンメダイが20年後に奄美大島の近くでとれたことがありました。活発に動き回る

イメージのないキンメダイがどうやって1,000キロ以上も移動するのかは、まだわかっていません。



文：亘 真吾

あんじいの ワンポイントアドバイス



何で標識を付けるの？

さかな からだ ひょうしき つ うみ はな あと
魚の体に標識を付けて、海に放すのじゃ。その後にもう一度だけが見つけたり、捕まえられたりして、魚がどこに行ったか、どれだけ生きていたか、などを調べておるぞ。

何がわかる？

- 移動ルート：どこからどこへ移動したのか
- 成長や生き残り：どれくらい大きくなり、どれくらい生きているか
- 生息地：どこにすんでいて、どんなところが好きなのか

ひょうしきほうりゅう くわ かいせつ からばん ごう
標識放流の詳しい解説はおさかな瓦版28号へ

<https://www.fra.affrc.go.jp/bulletin/letter/no28.pdf>

